

アコースティックバンド「テノヒラ」のボーカル 愛南町出身の kiku さんが綴るふるさとエッセイ

— あいなん音故地新 — 「何も咲かない寒い日は」

「何も咲かない寒い日は、下へ下へと根を伸ばせ」…これは山梨学院大学陸上部の監督だった方が選手に言っていた言葉だそうで、マラソン選手の高橋尚子さんの座右の銘でもある。私はこの言葉を山梨学院で走っていた友人を通して知った。

この記事が皆さんの元に届くとき、愛南町の状況はどうなってるやろう。3月の愛南町での施術を断念し、来月こそは!と思っただけ、それも叶わず悔しさを抱えて東京の自宅にこもってる。

先の見えん不安に負けそうになったり、涙が溢れたり。ため息だらけの日々の中でふと浮かんできたのはさっきの言葉。その友人には会えなくなってしまったけど、会えなくなってもこうしてすくい上げてくれる。

言葉というのは永遠やね。あらためてしっかりと受け取って、前を向く決意をした。今できることをやっていくしかない。苦しいし、しんどいけど、命より大切なものはない。みんなで乗り越えて、生き抜いて、命さえあればいつか必ず笑える日がくる。元気にまたみんなに会いたい。今は辛抱の時期。下へ下へと根を伸ばして、いつか大きな花を咲かせましょう。

(テノヒラkiku)



あいなん逸品図鑑 その②



「愛南ゴールド」



愛媛CATV
動画

しげたつファーム 山本 陽佑さん(緑甲)

5年前に松山市からUターンして愛南ゴールドの栽培を行っている山本陽佑さん。"地元で貢献したい"と考え、両親が定植した愛南ゴールドの園地を引き継いで就農しました。

山本さんは果実を木に成らせたまま収穫を遅らせる"木成り"と呼ばれる手法で生産し、5月中旬から8月ごろまで出荷を続けます。肥料を少なめにするなど、自然に近い形で育てるように心掛けています。

今年のかんきつの出来は良く、「5月以降は自信を持ってお客さまにお渡しできると思う」と自信をのぞかせます。販路はインターネットでの個人販売が中心で、購入者からお礼状が届くこともあり、その際は「より良いものを作ろう」と意欲が高まるそうです。

今後の展望については、「これから収量も増えてくると思う。将来的には加工品にも取り組みたい」と6次産業化を見据えています。



▲自身が育てた愛南ゴールドの出来栄を確認する生産者の山本陽佑さん。



▲山本さんが育てた愛南ゴールド。個人への直販は大玉と中玉の2種類に分けています。